

## 大学の世界展開力強化事業（平成29年度採択）事後評価結果

大学名	東海大学
整理番号	AR06
事業名	ライフケア分野における日露ブリッジ人材育成—主に極東地域の経済発展を目的として—

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <span style="font-size: 2em;">A<sup>-</sup></span>	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現されたと判断された。
<p>コメント</p> <p>本事業は、主として極東地域におけるライフケア分野の人材育成を日露双方向で行うことを目的とし、海外研修、中期・長期交換留学、健診人材実務者研修の受入・派遣を行い、更にダブル・ディグリー・プログラムの構築を目指して実施されたものである。</p> <p>事業展開では、過去50年間にわたる日露間の学生交流の実績を活かして幅広い学生に間口を広げ、受入学生に対する多言語によるワンストップサービスや大学院生のチューター制度の整備等を行った点が評価できる。また、単位取得を伴う留学が多く、UMAPへの参加は事業の進展として評価できる。</p> <p>更に、海洋調査研修船「望星丸」によりウラジオストク航海を実施し、国内他大学も含め数多くの学生が参加した点や、教職員の多言語対応強化に努めた点、SD・FD研修の充実等も評価できる。</p> <p>その一方で、プログラムが相互に関連の薄い複数の取組の総和となっており、「ライフケア分野の人材育成」という目的に沿った展開が十分でなかった点が最も惜しまれる。例えば、海洋調査研修船による研修航海がライフケア分野とどのように関わるのかが十分に説明されておらず、より一層の可視化が望まれ、工夫が必要である。また、ダブル・ディグリー・プログラムが枠組の構築に留まった点、交流学生数がオンラインを含めても目標値に達しなかった点、また、スコアの目標値が低いにも関わらず、外国語力基準達成への取組が十分でなかった点も、より一層の検討が必要であり、改善が求められる。</p> <p>最後に、国際情勢等を踏まえつつ、これまでの事業の成果をいかし、我が国の大学教育を牽引され、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p>	